

令和4年度  
事業報告書

学校法人富山国際学園

## 目 次

1 法人の概要	
(1) 基本情報 .....	1
(2) 建学の精神 .....	1
(3) 学校法人の沿革 .....	1
(4) 設置する学校・学部・学科等 .....	1
(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況 .....	1
(6) 収容定員充足率 .....	2
(7) 役員の概要 .....	2
(8) 評議員の概要 .....	2
(9) 教職員の概要 .....	2
2 事業の概要	
(1) 主な教育・研究の概要 .....	3
(2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況 .....	8
3 財務の概要	
(1) 決算の概要 .....	9
(2) その他（有価証券の状況等） .....	13
(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策 .....	14
別紙	
(1) 役員等一覧 .....	15
(2) 卒業の認定に関する方針等 .....	16

## 1 法人の概要

### (1) 基本情報

- ① 法人の名称 学校法人富山国際学園  
② 主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス等  
富山県富山市願海寺水口444番地  
電話 076(436)5139、FAX 076(436)5444、HPアドレス [www.tii.ac.jp](http://www.tii.ac.jp)

### (2) 建学の精神 「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性を備えた人材の育成」

### (3) 学校法人の沿革

昭和38年1月	学校法人富山女子短期大学設立認可
昭和38年4月	富山女子短期大学開学
昭和39年4月	富山女子短期大学付属高等学校開校
昭和52年4月	富山女子短期大学付属みどり野幼稚園開園
平成元年12月	学校法人富山国際学園寄附行為変更認可
平成2年4月	富山国際大学開学
平成4年4月	富山国際大学付属高等学校に校名変更
平成12年4月	富山短期大学及び富山短期大学付属みどり野幼稚園に校名変更

### (4) 設置する学校・学部・学科等

- ① 富山国際大学 現代社会学部 現代社会学科  
子ども育成学部 子ども育成学科  
② 富山短期大学 食物栄養学科  
幼児教育学科  
経営情報学科  
健康福祉学科  
専攻科食物栄養専攻  
③ 富山国際大学付属高等学校 全日制課程普通科  
④ 富山短期大学付属みどり野幼稚園

### (5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和4年5月1日現在)

学 校 名	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
富山国際大学	現代社会学部	120	125	490
	子ども育成学部	90	97	370
富山短期大学	食物栄養学科	80	85	160
	幼児教育学科	80	86	160
	経営情報学科	110	116	220
	健康福祉学科	40	29	80
	専攻科・食物栄養	15	12	30
付属高等学校	全日制課程普通科	250	276	755
みどり野幼稚園			24	110
				77

(6) 収容定員充足率

(毎年度 5月 1日現在)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
富山国際大学	102.9	105.0	104.1	103.1	104.1
富山短期大学	97.0	104.0	108.8	102.3	99.4
付属高等学校	117.5	108.9	104.3	99.6	101.5
みどり野幼稚園	76.0	75.5	72.7	74.5	70.0

(7) 役員の概要 (令和 5 年 3 月 31 日現在・別紙「役員等一覧」参照)

- ① 定数 理事 5 人以上 12 人以内  
監事 2 人
- ② 現員 理事 9 人  
監事 2 人

(8) 評議員の概要 (令和 5 年 3 月 31 日現在・別紙「役員等一覧」参照)

- 定数 11 人以上 30 人以内  
現員 20 人

(9) 教職員の概要

(令和 4 年 5 月 1 日現在)

		教 員 数				事 務 職 員	平均年齢	
		学長等	本 務	兼 務	計		教 員	事 務
学園本部						4		49.3
国際大学	現代社会学部		20	16	36	22	54.0	44.4
	子ども育成学部		20	26	46		53.7	
	小 計	1	40	42	83		53.9	
富山短大	食物栄養学科		11	9	20	21	46.3	40.4
	幼児教育学科		10	8	18		53.1	
	経営情報学科		10	6	16		48.2	
	健康福祉学科		6	10	16		58.0	
	小 計	1	37	33	71		51.2	
付属高校		1	48	17	66	4	46.6	53.3
幼稚園		(1)	7	8	15		43.6	—
合 計		3	132	100	235	51	50.2	43.8

※ 兼務教員 学内の兼務者を除く数で示す。

## 2 事業の概要

### (1) 主な教育・研究の概要

- ① 「卒業の認定に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受け入れに関する方針」  
別紙「卒業の認定に関する方針等」参照)

### ② 主な事業の概要

#### i 学園本部

##### a 働き方改革への対応

少子高齢化や働き方改革などの社会情勢の変化を踏まえ、教職員が仕事と子育て・介護を両立させることができ、働きやすい環境をつくるため、育児・介護休業等に関する規程を一部改正し、育児休業を分割取得できるようにしました。

##### b 学園情報教育研究センターの取り組み

令和3年度から4年計画で実施している学園情報ネットワーク刷新事業として、令和4年度は学園内部の基幹ネットワークの主要部分の高速化を行いました。具体的には学園ファイヤウォールの設置を始めとしてメインとなる通信機器の増強、並びに大学内の光ファイバ等の更新を実施しました。さらに短大も含めて要所要所に配置されているWi-Fi設備の高速化を段階的に実施しており、これらによってオンラインによる授業や会議の安定的運用を図りました。

また業務効率化事業として、Kintone（キントーン）を用いた学内業務のワークフロー化を順次進めており、令和4年度には「支出負担行為伺書」「起案文書」のワークフローを開発して大学と学園本部においても利用開始しました。さらに教員も含めた「電子タイムカード」の運用を開始しました。学生向けには欠席届のオンライン化等のサービスを開始し、大学内のDX化推進に努めました。

セキュリティ対策としては、ネットワーク機器更新に併せて学園ファイヤウォールのアクセスログ解析ツールを導入して非常時への対応力を強化しました。また学園教職員全員がオンラインによる対策講座を受講し、メール等による標的型攻撃などへの理解を深めました。

##### c 新駅（願海寺）設置に向けた取り組み

前年度に引き続き、呉羽キャンパスの交通アクセスを改善するため、期成同盟会と協力し、新駅設置に向けた取組を進めました。

#### ii 富山国際大学

##### a 教育・研究活動

###### (a) 授業改革等の推進

レポートループリック、プレゼンテーションループリック、卒業論文ループリックを定め、評価の標準化を図り、併せて成績評価基準（評価内容、評価、Grade Point）により、厳格かつ厳正な成績管理の運用を開始しました。また、全学学生を対象に、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とした、数理・データサイエンス・AI教育プログラムに取り組みました。

###### (b) 教育研究活動

国の科学研究費助成事業をはじめとして、32件、約36百万円の外部資金を獲得するなど、研究の推進に努めました。

b 地域貢献・国際交流活動

(a) 公開講座

コロナ禍を経て3年ぶりにエクステンション・カレッジ特別講演会を開催（1/27）しました。『ウィズコロナ、そして、アフターコロナ 私たちがめざす未来』をテーマに、富山県砺波市ご出身で共同通信社編集委員・論説委員であり、テレビコメンターでもご活躍の太田昌克氏をお招きしご講演いただき、76名の方々に参加いただきました。また、エクステンション・カレッジ語学講座も開講し、英語講座はオンラインで開催し、前期8名、後期11名の計19名（延数）、中国語講座は対面式で開催し、後期6名が受講しました。

富山国際大学公開シンポジウム「カーボンニュートラル社会に向けた市民目線のSDGs」を開催（2/18）しました。

(b) ボランティア活動

東黒牧キャンパスでは、現代社会学部・観光専攻の学生有志が、氷見市にあるワイナリー「SAYS FARM(セイズファーム)」でのぶどう摘みボランティアに参加（9.11）、『海王丸』の総帆展帆ボランティアに参加（10.16）、SDGsサークルでは生協主催の海岸クリーン作戦（6/19）に参加するなど、地域との繋がりを深めるとともに、自身の自発的な意思が社会貢献に繋がることを学び、奉仕の心を養いました。

呉羽キャンパスでは、子ども育成学部の学生が包括連携協定を締結している南砺市で中学生学習支援事業に支援員として参加し、夏休みの期間中中学3年生の学修を支援しました。

(c) 国際交流活動

新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、交流活動も徐々に復活しました。まず、4月に在学生に対し海外留学（派遣）プログラム等の参加促進を行いました。英語国際キャリア専攻2年次生は留学が必須となっており、「グローバルスタディーズ」科目で今回は6名が参加しました。留学先は、オーストラリア、カナダ、アメリカ、イギリスで、期間は3か月～6か月間。その他、英語国際キャリア専攻以外の希望者が参加し単位認定されるインターナショナルプログラムズ（長期）で韓国1名、同プログラムズ（短期）でオーストラリアへ1名、マルタ共和国へ2名が参加しました。また、3月には異文化研修でカナダへ8名、韓国へ5名、グローバルキャンパスでイギリスへ6名が参加し、海外研修への参加学生がコロナ禍前の人数に近い状態に戻りました。海外から受入れる留学生は、3年次編入生（中国）1名と交換留学生（アメリカ、中国）2名の計3名に留まりましたが、11月には黒部峡谷・宇奈月への県内研修を行い、トロッコ電車の乗車体験など、在学留学生と日本人学生を併せ13名が交流活動を行いました。

c 課外活動

ボート部は男子ペアが全日本選手権大会で優勝、軽量級は2位、また、男子シングルスカルでは全日本大学選手権で念願の初優勝、男子ダブルスカルでは2位となり、全国大会において各種目で好成績を上げました。また、陸上競技部は、北信越学生陸上競技選手権の女子走高跳で昨年度に続き優勝、各マラソンで上位入賞、短距離競技でも数名が決勝進出したほか、投擲種目では男子やり投、円盤投、ハンマー投で北信越大会に出場するなど、選手層の厚さ・個々の競技レベル向上が見られ、今後の活躍に期待が持てる結果となりました。

d 各学部の状況

(a) 現代社会学部

新型コロナウイルス感染症の影響により長らく海外渡航が制限されていましたが、

2022年3月に米国ミズーリ州立大学へ留学していた英語国際キャリア専攻の学生5名を含む計6名の学生が留学を終えて帰国。また新たに、英語国際キャリア専攻の学生6名が留学し、年度内に無事帰国しました。その他にも、学部のインターナショナルプログラムを利用して計4名の学生が留学しています。

また、地域活動では、昨年度に引き続き南砺市のSDGs未来都市推進事業と連携した取組みを行ったほか、各専攻の実習、研究室での活動、「夢への懸け橋事業」で、地域の人々の協力も仰ぎながら、教員と学生が一丸となって地域の課題解決に取り組みました。

(b) 子ども育成学部

情報化推進の観点から「教育とICT」の授業を創設しました。Chromebookを60台導入し、富山市内の小中学校と同じ環境で授業実践に結びつく学びを開始しました。

コロナ禍にあっても小学校、幼稚園・保育所・認定こども園、福祉施設のご理解とご協力のおかげで全ての実習とインターンシップが実施できました。また、観察実験アシスタントや英語パートナーに加え外国人支援スタッフ、呉羽小学校のクラブ活動など学生が積極的に参加しています。3月にはカナダ異文化研修に8名の学生が参加しました。

iii 富山短期大学

a 教育・研究活動

(a) 授業改革等の推進

文部科学省が奨励する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」認定に向け、学内に推進委員会を設置し推進体制を構築するとともに、令和5年4月から始まる4学科ノートパソコン必携化にともなうセッティング及びフォローアップ体制も整備したところです。

(b) 教育研究活動

国の科学研究費助成事業、富山第一銀行奨学財団研究助成など、6件4百万円余の外部資金獲得、研究紀要第59巻発行、学長裁量経費助成研究など研究活動推進に努めました。

b 地域貢献・国際交流活動

(a) 公開講座

呉羽キャンパスをはじめ7会場で10講座32テーマを開講し、コロナ禍の影響もあってか受講者は延べ872人（前年963人）となりました。

(b) ボランティア活動

学生の人間力向上を目的として、本学独自のWebボランティアシステムを活用して、活動への参加を推奨する取組みを実施し、令和4年度は、富山マラソンなど依頼件数が173件の依頼に対し98件の活動に学生が参加しました。また学生のサークル・ボランティア活動の立上げ支援事業「+Oneともに」の申請が10団体からあり、すべて実施されました。

c 各学科の状況

(a) 食物栄養学科

卒業生87名に対して82名が栄養士の資格を取得したほか、9名が栄養教諭第二種免許を取得しました。日商PC検定3級（文書作成）の検定試験には、4名が合格しました。コロナ禍ではありましたが、給食管理校外実習については2週間校外で実

習することができました。第 19 回栄養士実力認定試験において、全国の栄養士養成課程受験者 3,042 名中 4 位の成績を得た学生が、成績優良者として全国栄養士養成施設協会より表彰されました。

(b) 幼児教育学科

卒業生 79 名中 78 名が保育士資格・幼稚園教諭二種免許の両方を取得しました。就職者全体の 97% が専門職に就職し、人材不足が叫ばれている保育分野と福祉分野に巣立ち、地域に貢献しました。また、大学コンソーシアム富山の「学生による地域フィールドワーク研究助成」に 5 年連続で採択され、「子どもの権利を子育てと保育に浸透させる—保育者・学生・子どもの視点—」に取り組み、昨年同様「チームワーク賞」を受賞しました。指定保育士養成施設として富山県厚生部の指導調査を受け、概ね適正と認められ報告を求められる是正事項はありませんでした。

(c) 経営情報学科

学生の就職活動に対するモチベーションを計画的に高めるため、1 年生の 11 月から地元有力企業の協力を得て、「学内企業研究会」や「学内企業説明会」などを開催しました。また、英語や小論文、面接などの特別指導を実施することで、国立大学や富山国際大学などの編入学試験に 7 名が合格しました。さらには、射水市主催の「いみず学生アイディアコンテスト」では、井坂ゼミのチームが最優秀賞に輝きました。これまで以上に地域社会に密着しながら、学生の多様な進路選択への支援に取り組み、専門的な知識と技術を身につけた人材を育成します。

(d) 健康福祉学科

新たに「シャドーイング」を取り入れた実習や「駅なかオープンキャンパス」に取組みました。また、県の委託事業「地域での介護の仕事魅力アップ推進研究モデル事業」(900 万円) と併せ、フィールドワークを取り入れた「総合的研究発表会」では、地元関係団体等から活発な意見が出て生きた学びにつながりました。富山県ホームヘルパー協議会主催の「介護川柳コンクール」で優秀賞 1 名、富山県介護実習・普及センター主催「福祉用具・アイディア作品コンクール」入賞 2 名、介護の日 in とやま実行委員会主催「介護の日サブタイトルコンテスト」1 名、富山県社会福祉協議会主催「がんばる介護職員（がんばりすと）」に卒業生 6 名が受賞しました。

(e) 専攻科食物栄養専攻

専攻科 2 年生 15 名のうち 13 名が、学位試験に合格し(独)大学評価・学位授与機構より学位（四年制）を授与されました。昨年度の専攻科を修了した 7 名が管理栄養士の国家試験を受験し、4 名が合格しました。専攻科 2 年生の全員が、第 69 回日本栄養改善学会学術総会にて、学会発表を行いました。富山県主催の「富山型食生活レシピ動画コンテスト」に応募した専攻科 1 年生が、優秀賞を受賞しました。

iv 付属高等学校

a 教育研究活動

(a) I C T (Information Communication Technology) 教育の推進

平成 23 年度より 12 年間（本年度で 13 年目）にわたって、県内でも最先端の ICT 教育を展開しています。生徒全員が iPa d を所有するほか、高速無線 LAN や各教室へのプロジェクター 2 台設置などの教育環境やデータサイエンス教育、プログラミング教育、オンライン授業など、G I G A スクール時代においても県内高校をリードする存在となっています。

(b) 国際交流活動の推進と学校のグローバル化

コロナ禍の中、2022 年 8 月 20 日～8 月 29 日に 10 名の生徒がアメリカの姉妹校

であるチェスターントン高校を訪問しました。また、2年間コロナの影響で中止していたアメリカ研修を再開し、第29回アメリカ研修として2023年3月13日～3月25日に37名の生徒がポートランド州立大学でネイティブの授業を受けました。また、2023年3月12日～23日には、第5回韓国英語研修に18名の生徒が参加してソルブリッジ大学で英語ディベートの講義を受け、大田外国語高校の生徒と交流をしました。いずれもホームステイは実施できませんでしたが、生徒たちにとって貴重な体験となりました。さらに、2022年12月2日に、タイのストリスリナン・スクールとの姉妹校調印式をオンラインで実施しました。これらは、令和2年度および令和3年度にオンラインでの交流を続けた成果であり、令和5年度以降はコロナ禍前のように活発な交流をしていく予定です。令和5年度のアメリカ研修はホームステイとなり、2学年の研修旅行先も海外を選択する生徒たちが学年の約4割に及んでいます。

b 課外活動

文化部は英語部が富山県高校生ディベート大会で優勝し、富山県高等学校英語プレゼンテーションコンテストで最優秀賞を獲得しました。ユネスコ部は尾崎行雄杯演説大会で最優秀賞を受賞したほか、第70回学生ユネスコ弁論大会で優勝し、国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール中央大会への出場権を手にしています。運動部ではバドミントン部が女子個人ダブルス・シングルスで全国高等学校総合体育大会に出場、女子サッカー部は富山県選手権大会で優勝し、柔道部も富山県総合体育大会で個人3階級を制しました。また、水泳では全国高等学校総合体育大会の女子100mバタフライ3位入賞をはじめとして、全国大会で数多くの上位入賞を果たしました。生徒たちは各種検定にも積極的に参加し、英検では1級2名、準1級8名の合格者を出しました。

v みどり野幼稚園

a 教育研究活動

(a) 幼稚園型認定こども園としての取り組み

認定こども園への移行後4年目となり、2号認定及び新2号認定（広域入所及び短時間就労等）の子どもが増加しました（R5.3には2号認定24名、新2号認定15名）。このため、1クラスで行っていた教育時間終了後の保育を2クラス対応に変更したほか、夏季休業期間に短大学生の保育ボランティアを活用するなどして、子どもたちが落ち着いた環境で生活できるよう配慮しました。1号認定の子どもの預かり保育も延べ2,377人の利用となり、一部、利用集中日に制限を設けたことがあったものの、概ね保護者の要望に応えることができました。満3歳児からの入園ニーズが高く、7月には定員（6名）に達したため、その後の希望に応えることができませんでした。令和5年度には、受け入れ定員の拡大を行い、園児数の確保に努めてまいります。

(b) 子育て支援・保護者との連携

保護者向けにクローズドしたブログで、園生活の様子や子どもたちの表情を伝達するほか、日常の保育に保護者が参加する「保育参加」を復活し、保護者との情報共有に努めました。また地域の未就園児親子を対象とした親子サークルを年30回開催し、地域家庭の子育て支援を行いました。サークル講師として在園児や卒園児の保護者の協力を得ることで、保護者と一体となった支援を展開することができました。（延べ914人参加、内訳：保護者433人、児童481人）。

(c) 研究・研修、学園内連携

東海北陸地区私立幼稚園教育研究会において教育課程研究の成果発表を行い、課題をまとめたうえで、令和5年度の継続発表に向けた準備に取り組みました。研究を通して、非常勤職員も含めたカリキュラムマネジメントに取り組むことができ、保育

の質向上につながりました。

実習指導としては、富山短期大学幼児教育学科 86 名の学生が各 10 日間の観察・参加実習を行い、個々の学生に応じた指導に努めました。さらに短大幼児教育学科との連携のもと、夏季保育や行事ボランティアに多数の学生の参加を得ることができ、相互の学びとなりました。富山国際大学からは、定期的に保育に携わる「保育センター」の派遣や、授業における実践活動の依頼、学生の卒業研究及び教員の研究に対する協力依頼等があり、連携の幅が広がりました。保護者の学園内連携への期待も高く、今後一層強化してまいります。

## (2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

学園将来構想を踏まえた学園中期事業計画（令和元年度～5 年度）の 4 年目を迎えたところですが、新型コロナウイルス感染症感染拡大により一部遠隔授業の実施を余儀なくされるなど、教育研究活動などの面で大きな影響を受けました。一方で、学園情報教育研究センターにおける情報化に向けた取り組みなど、着実な前進も見られました。

### 3 財務の概要

#### (1) 決算の概要

##### ① 貸借対照表関係

###### i 貸借対照表の状況と経年比較

総資産額は、13,960百万円と前年度に比べ138百万円の増加、負債総額は1,250百万円で前年度に比べ45百万円の増加となりました。

総資産額の増加は、学園施設等充実引当特定資産などの増加によるもので、また、負債総額の増加は、退職給与引当金、前受金及び修学旅行費預り金の増加などによるものです。

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
固 定 資 産	12,185,464	12,500,691	12,594,092	12,636,119	12,728,672
流 動 資 産	1,127,485	954,899	1,068,999	1,185,794	1,231,824
資 産 の 部 合 計	13,312,949	13,455,590	13,663,091	13,821,913	13,960,496
固 定 負 債	584,812	571,855	568,099	569,943	615,110
流 動 負 債	706,457	639,239	628,283	635,512	635,230
負 債 の 部 合 計	1,291,269	1,211,094	1,196,382	1,205,455	1,250,340
基 本 金	14,690,557	14,736,774	14,850,525	14,900,418	14,951,762
繰 越 収 支 差 額	△ 2,668,877	△ 2,492,278	△ 2,383,816	△ 2,283,960	△ 2,241,606
純 資 産 の 部 合 計	12,021,680	12,244,496	12,466,709	12,616,458	12,710,156
負債の部及び純資産の部合計	13,312,949	13,455,590	13,663,091	13,821,913	13,960,496

###### ii 財務比率の経年変化

流动費比率は、約150%から約194%程度で推移しており、短期的な返済力には支障がない水準にあります。

積立率は、令和4年度末で79.7%と徐々に改善してきていますが、さらに運用資産の充実に努めしていく必要があります。

(単位：年・%)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
運 用 資 産 余 裕 比 率 ( 年 )	1.7	2.0	2.2	2.3	2.3
流 動 比 率	159.6	149.4	170.1	186.6	193.9
総 負 債 比 率	9.7	9.9	8.8	8.7	9.0
前 受 金 保 有 率	177.0	184.2	204.5	230.4	260.0
基 本 金 比 率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
積 立 率	69.5	74.3	76.4	78.7	79.7

② 資金収支計算書書類関係

i 資金収支計算書の状況と経年比較

当年度の資金収入総額及び支出総額は、3,857百万円と前年度に比べ145百万円の増加となりました。

(単位：千円)

収入の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生生徒等納付金収入	1,982,473	2,049,244	2,043,820	1,995,554	1,983,366
手数料収入	39,461	40,050	38,873	37,721	33,926
寄付金収入	2,230	46,769	4,627	3,885	16,820
補助金収入	693,373	624,831	629,567	607,395	639,553
資産売却収入	200	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	30,809	27,800	18,822	23,658	22,169
受取利息・配当金収入	3,713	2,412	1,754	1,758	1,359
雑収入	114,693	89,989	82,433	57,229	126,247
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	494,167	458,420	459,755	460,960	417,325
その他の収入	3,457,222	272,667	110,055	117,081	133,584
資金収入調整勘定	△ 687,756	△ 579,709	△ 564,954	△ 533,384	△ 579,568
前年度繰越支払資金	857,355	874,683	844,356	940,047	1,062,118
収入の部合計	6,987,940	3,907,156	3,669,108	3,711,904	3,856,899

支出の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費支出	1,682,054	1,703,869	1,645,743	1,598,660	1,695,877
教育研究費支出	571,046	507,728	509,839	534,433	584,020
管理経費支出	118,024	127,869	126,773	125,345	134,138
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	343,659	20,808	51,306	25,376	16,496
設備関係支出	37,299	35,421	65,147	32,226	87,905
資産運用支出	3,334,978	629,232	317,800	339,770	339,151
その他の支出	179,485	154,375	119,310	79,645	113,698
資金支出調整勘定	△ 153,288	△ 116,501	△ 106,857	△ 85,669	△ 199,502
翌年度繰越支払資金	874,683	844,355	940,047	1,062,118	1,085,116
支出の部合計	6,987,940	3,907,156	3,669,108	3,711,904	3,856,899

## ii 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動資金収支差額は、432百万円と前年度と比べ黒字幅が46百万円の減少となりましたが、これは、学納金が減少したことなどによるものです。

施設整備等活動資金収支差額は、△104百万円と赤字幅が前年度に比べ48百万円の増加となりました。

その他の活動資金収支差額は、△305百万円と前年度に比べ赤字幅が5百万円増加しましたが、これは特定資産への繰入額の増などによるものです。

支払資金は、年度当初の1062百万円から年度末には1,085百万円と23百万円の増加しております。

(単位：千円)

科 目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,749,393	2,874,453	2,830,483	2,723,534	2,821,452
教育活動資金支出計	2,371,124	2,339,466	2,282,369	2,258,388	2,413,507
差 引	378,269	534,987	548,114	465,146	407,945
調整勘定等	98,102	68,914	△ 51,501	12,922	24,298
教育活動資金収支差額	476,371	603,901	496,613	478,068	432,243
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	113,847	4,000	9,874	1,687	294
施設整備等活動資金支出計	380,958	56,229	116,453	57,602	104,401
差 引	△ 267,111	△ 52,229	△ 106,579	△ 55,915	△ 104,107
調整勘定等	△ 111,355	0	0	0	0
施設整備等活動資金収支差額	△ 378,466	△ 52,229	△ 106,579	△ 55,915	△ 104,107
小 計 (※1)	97,905	551,672	390,034	422,153	328,136
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	3,257,797	48,319	24,286	12,525	61,649
その他の活動資金支出計	3,338,374	630,319	318,628	312,608	366,787
差 引	△ 80,577	△ 582,000	△ 294,342	△ 300,083	△ 305,138
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 80,577	△ 582,000	△ 294,342	△ 300,083	△ 305,138
支払資金の増減額 (※2)	17,328	△ 30,328	95,692	122,070	22,998
前年度繰越支払資金	857,355	874,683	844,355	940,047	1,062,117
翌年度繰越支払資金	874,683	844,355	940,047	1,062,117	1,085,115

※1 教育活動資金収支差額及び施設整備等活動収支差額の合計額を示す。

※2 小計 (※1) 及びその他の活動資金収支差額の合計額を示す。

## iii 財務比率の経年比較

(単位：%)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動資金収支差額比率	17.3	21.0	17.6	17.6	15.3

③ 事業活動収支計算書関係

i 事業活動収支計算書の状況と経年比較

当年度収支は、学納金、補助金の減少などにより、前年度の97百万円の黒字から42百万円の黒字と黒字幅が縮小しました。

(単位：千円)

科 目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
<b>事業活動収入の部</b>						
教 育 活 動 收 支	学生生徒等納付金	1,982,473	2,049,244	2,043,820	1,995,554	1,983,366
	手 数 料	39,461	40,050	38,873	37,721	33,926
	寄 付 金	2,444	47,042	5,209	4,279	17,140
	経常費等補助金	579,727	620,831	619,693	605,708	639,259
	付随事業収入	30,809	27,800	18,822	23,658	22,169
	雑 収 入	116,619	114,979	94,727	63,489	137,756
	<b>教育活動収入計</b>	<b>2,751,533</b>	<b>2,899,946</b>	<b>2,821,144</b>	<b>2,730,409</b>	<b>2,833,616</b>
<b>事業活動支出の部</b>						
教 育 活 動 收 支	人 件 費	1,683,943	1,716,076	1,654,196	1,606,915	1,710,986
	教育研究経費	892,675	836,508	831,405	854,541	898,781
	管 理 経 費	120,655	130,559	129,570	129,917	137,927
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	<b>教育活動支出計</b>	<b>2,697,273</b>	<b>2,683,143</b>	<b>2,615,171</b>	<b>2,591,373</b>	<b>2,747,694</b>
	<b>教育活動収支差額</b>	<b>54,260</b>	<b>216,803</b>	<b>205,973</b>	<b>139,036</b>	<b>85,922</b>
<b>事業活動収入の部</b>						
教 育 活 動 外 收 支	受取利息・配当金	3,713	2,412	1,754	1,758	1,359
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	<b>教育活動外収入計</b>	<b>3,713</b>	<b>2,412</b>	<b>1,754</b>	<b>1,758</b>	<b>1,359</b>
	<b>事業活動支出の部</b>					
教 育 活 動 外 收 支	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	<b>教育活動外支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
	<b>教育活動外収支差額</b>	<b>3,713</b>	<b>2,412</b>	<b>1,754</b>	<b>1,758</b>	<b>1,359</b>
<b>経 常 収 支 差 額</b>	<b>57,973</b>	<b>219,215</b>	<b>207,727</b>	<b>140,794</b>	<b>87,281</b>	
<b>事業活動収入の部</b>						
特 別 收 支	資産売却差額	199	0	0	0	0
	その他の特別収入	116,105	9,737	17,184	11,363	12,234
	<b>特 別 収 入 計</b>	<b>116,304</b>	<b>9,737</b>	<b>17,184</b>	<b>11,363</b>	<b>12,234</b>
<b>事業活動支出の部</b>						
特 別 收 支	資産処分差額	28,057	6,136	2,699	2,357	5,289
	その他の特別支出	0	0	0	50	529
	<b>特 別 支 出 計</b>	<b>28,057</b>	<b>6,136</b>	<b>2,699</b>	<b>2,407</b>	<b>5,818</b>
	<b>特 別 収 支 差 額</b>	<b>88,247</b>	<b>3,601</b>	<b>14,485</b>	<b>8,956</b>	<b>6,416</b>
<b>基本金組入前当年度収支差額</b>						
		146,220	222,816	222,212	149,750	93,697
	<b>基 本 金 組 入 額 合 計</b>	<b>△ 174,615</b>	<b>△ 46,217</b>	<b>△ 113,750</b>	<b>△ 52,894</b>	<b>△ 51,343</b>
	<b>当 年 度 収 支 差 額</b>	<b>△ 28,395</b>	<b>176,599</b>	<b>108,462</b>	<b>96,856</b>	<b>42,354</b>
	<b>前 年 度 繰 越 収 支 差 額</b>	<b>△ 2,640,482</b>	<b>△ 2,668,877</b>	<b>△ 2,492,278</b>	<b>△ 2,383,816</b>	<b>△ 2,283,960</b>
	<b>基 本 金 取 崩 額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>3,000</b>	<b>0</b>
	<b>翌 年 度 繰 越 収 支 差 額</b>	<b>△ 2,668,877</b>	<b>△ 2,492,278</b>	<b>△ 2,383,816</b>	<b>△ 2,283,960</b>	<b>△ 2,241,606</b>

(参考)

事 業 活 動 収 入 計	2,871,550	2,912,095	2,840,082	2,743,530	2,847,209
事 業 活 動 支 出 計	2,725,330	2,689,279	2,617,870	2,593,780	2,753,512

## ii 財務比率の経年比較

人件費比率は、約60%前後とやや高い水準で推移しています。

教育研究経費比率は、約30%前後で推移しており、教育研究活動の維持に必要な水準は確保されています。

事業活動収支差額比率及び経常収支差額比率は、学生生徒納付金の減少により事業活動収入、経常収入が減少したため、前年度に比べ、それぞれ2%程度減少しています。

(単位：%)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費比率	61.1	59.1	58.6	58.8	60.4
教育研究経費比率	32.4	28.8	29.5	31.3	31.7
管理経費比率	4.4	4.5	4.6	4.8	4.9
事業活動収支差額比率	5.1	7.7	7.8	5.5	3.3
学生生徒等納付金比率	72.0	70.6	72.4	73.0	70.0
経常収支差額比率	2.1	7.6	7.4	5.2	3.1

## (2) その他

### ① 有価証券の状況

(単位：千円)

種類	貸借対照表上計上額	時価	差額
出資金	5	5	0

### ② 借入金の状況

借入先	期末残高	利率	返済期限
<該当なし>			

### ③ 学校債の状況

発行年度	期末残高	利率	償還期限
<該当なし>			

### ④ 寄附金の状況

(単位：千円)

寄附金の種類	寄付者	金額	摘要
一般寄付金	個人・企業	0	教育研究等資金として
特別寄付金	企業等	16,820	寄附講座資金として
現物寄付金	高校卒業記念等	10,569	美術品等
合計		27,389	

### ⑤ 補助金の状況

各設置校の補助金の交付状況は次のとおりです。

(単位：千円)

補助金の種類	国際大学	富山短大	付属高校	幼稚園	合計
国庫補助金	137,956	135,205	0	0	273,161
地方公共団体等補助金	3,402	1,798	284,000	77,192	366,392
合計	141,358	137,003	284,000	77,192	639,553

⑥ 収益事業の状況

<該当なし>

⑦ 関連当事者等との取引の状況

- i 関連当事者 <該当なし>
- ii 出資会社 <該当なし>

⑧ 学校法人間財務取引

<該当なし>

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

新型コロナウィルス感染症の影響から一部遠隔授業の実施や学外実習の制約など、教育研究活動が大きな影響を受けた中、学園全体の当年度収支は、前年度に比べ減少したものの、黒字を計上することができました。

財務比率をみると、事業活動収支差額比率及び経常収支差額比率は、学生生徒納付金の減少により前年度に比べ低下しております、ほぼ全国平均値となっております。また、積立率は、令和4年度末で79.7%と徐々に回復しておりますが、さらに運用資産の充実に努めていく必要があります。なお、流動比率は、約170～195%程度で推移しており、短期的な返済力には支障のない水準にあります。

今後、教育研究活動の維持・向上のためには、人件費比率を低減させるとともに、教育研究経費比率を高めていく必要があります。また、大学及び短大施設の老朽化の進展を踏まえると、今後、改築又は修繕・改修費の增高が見込まれることから、引き続き、学生確保に積極的に取り組むなど、収益性をさらに高めるとともに、運用資産の充実を図り経営の安定性を高めていく必要があります。

## 役員等一覧

(令和5年3月31日現在)

## 1 役員

理事 定数 5人以上12人以内・現員 9人

監事 定数 2人・現員 2人

区分	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職等
理事長	金岡克己	理事 平成27年 9月17日 理事長 平成29年 6月 1日	非常勤	(株)スカイインテック特別参与
常務理事	黒崎紫抄代	理事 平成31年 4月 1日 常務理事 令和元年 5月31日	常勤	学園本部事務局長
理事	高木利久	令和元年 7月 1日	常勤	富山国際大学学長
理事	宮田伸朗	平成29年 4月 1日	常勤	富山短期大学学長
理事	仲井章	令和 4年 4月 1日	常勤	富山国際大学付属高等学校校長
理事	水口昭一郎	平成26年 4月 1日	非常勤	立山科学(株)代表取締役会長
理事	山地清	平成26年 4月 1日	非常勤	富山信用金庫理事長
理事	若林啓介	平成28年 5月31日	非常勤	紙ぶらす(株)代表取締役社長
理事	藤井久丈	平成29年 4月 1日	非常勤	医療法人社団藤聖会理事長
監事	古越邦男	令和 3年12月21日	非常勤	前舟橋村長
監事	大橋豊	令和 4年 6月27日	非常勤	富山県商工会議所連合会常任理事

## 2 評議員

定員11人以上30人以内・現員20人

氏名	就任年月日	主な現職等
金岡克己	平成25年 3月28日	(株)スカイインテック特別参与
黒崎紫抄代	平成31年 4月 1日	学園本部事務局長
高木利久	平成31年 4月 1日	富山国際大学学長
宮田伸朗	平成14年 4月 1日	富山短期大学学長
仲井章	令和 4年 4月 1日	富山国際大学付属高等学校校長
石動瑞代	平成29年 4月 1日	富山短期大学付属みどり野幼稚園長
高野愛	平成28年11月30日	富山国際大学卒業生
安川和子	平成 2年11月 9日	富山短期大学卒業生
梅野三保	令和 3年 3月29日	富山国際大学付属高等学校卒業生
水口昭一郎	平成 8年 4月 1日	立山科学(株)代表取締役会長
金岡純二	平成 5年 9月 8日	(株)富山第一銀行代表取締役会長
岩田繁子	平成18年 5月31日	富山県婦人会長
深田均	令和 4年 4月 1日	老田地区自治振興会長
梅田ひろ美	平成26年 4月 1日	(株)ユニゾーン代表取締役会長
今本雅祥	平成28年 4月 1日	富山市副市長
藏堀祐一	令和 3年 5月25日	富山県副知事
佐藤栄治	平成29年11月 2日	富山国際大学後援会長
川島国	令和 4年 4月 1日	富山短期大学後援会長
長谷川稔	令和 4年 5月26日	富山国際大学付属高等学校PTA会長
宮田徹	平成21年 4月 1日	(福)富山国際学園福祉会事務局長

## 別紙 卒業認定に関する方針等

### I 富山国際大学

#### 1 卒業認定・学位授与の方針

富山国際大学（以下、「本学」という。）は、「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会の発展に寄与する」ことを、基本理念に掲げている。

このような基本理念を踏まえて、所属学部の教育課程所定の単位を修得したうえで、以下のような資質・能力を身につけることを目標とする。

各学部の卒業認定・学位授与の方針は、この全学の方針を踏まえて定める。

- ・人間性の向上（DP1）

共存・共生の精神のもと時代の潮流に対応できるよう、人間として必要な知識や教養、思考力・表現力、倫理観を身につける。

- ・専門性の向上（DP2）

各学部のそれぞれの教育目標に基づき、講義、演習、実習を通して、専門分野に関わる基本的知識・技能や知的学識を習得し、専門的素養を身につける。

- ・社会性の向上（DP3）

大学内外での学修を通じて、人々と協力して課題などを解決できる、社会性を持ち自立した人間になったと実感できる力を身につける。

#### 2 教育課程編成・実施の方針

卒業認定・学位授与の方針に基づき、教養科目、専門科目を体系的に編成して、講義、演習、実習科目等を適切に配置し、効果的な授業の実施を図る。

(1) 教養科目に、共存・共生の時代において時代の潮流に対応できる人材の育成を図るために、「人間理解」「社会理解」「国際化・情報化対応」「キャリア系」「教養演習」等の科目群を設ける。

(2) 各学部の専門科目を、学部や専攻の専門分野の修得に適した科目群に分け、体系的に授業科目を配置する。

(3) 社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うために、教養科目の中に「キャリア科目群」を設ける。また、重点的に育成する全学共通の基礎的・汎用的能力として、コミュニケーション能力、協働力、課題解決力を設定し、これらの能力の向上を図るため、各授業科目でどの能力を伸ばすかをシラバスで明示する。

各学部の教育課程編成・実施の方針は、この全学の教育課程編成・実施の方針及び各学部の卒業認定・学位授与の方針に基づき、定めることとし、各授業科目が卒業認定・学位授与の方針に定められたどの能力・素養の向上に寄与するかをシラバスで明示する。

授業の実施にあたっては、対話型授業、演習・反復型授業、グループ学習、地域フィールドワーク、授業外学習指導や自主学習等、多様な教育方法による効果的学びを取り入れることとし、各授業科目でどのような教育方法を採用するかをシラバスで明示する。

#### 3 入学者の受け入れ方針

- ・富山国際大学の教育理念・目標

富山国際大学では、「共存・共生の精神と知性を磨き、健全にして個性豊かな人格を形成することを基本的な教育理念として、国際化、情報化、少子高齢化、環境との共生の時代において、国際社会及び地域社会の発展に貢献できる人間を育成する」ことを教育目標としています。

このような人材を育成するために、次のような入学者を求めています。

・求める人物像

- ① 大学教育を受けるにふさわしい基礎学力を有し、学ぶ意欲および目的意識を持つ人
- ② 知性、教養を身に付け、個性豊かな人間をめざし、自己を高める努力をする人
- ③ 国際社会や地域社会の発展に貢献できるよう、専門的・実践的な知識や技術の取得に意欲を持つ人

## II 富山短期大学

### 1 卒業認定・学位授与の方針

富山短期大学は建学の精神・教育の理念に基づいて、「高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった地域社会の発展に貢献する人材」の育成、すなわち全人的な人間育成をめざし、次の5つの力を身につけることを全学的な教育目標としています。

- ① 実践の土台となる「専門的知識・技能」
- ② 実践を支える「思考力・判断力・表現力」
- ③ 生涯学び続け成長するための「主体的に学ぶ力」
- ④ 他者を尊重し、多様な人々と共に共通の目標の実現に貢献できる「協働力」
- ⑤ 健全で豊かな「人間性」

これらを踏まえて、各学科がそれぞれの教育目的に応じて定める卒業認定・学位授与の方針に示す学修成果を修得し、本学の卒業要件を満たした人に短期大学士の学位を授与します。専攻科においては、専攻科修了認定方針に示す学修成果を修得し、所定の修了要件を満たした人の修了を認定します。

### 2 教育課程編成・実施の方針

富山短期大学がめざす人材を育成するために、本学の教育理念に沿って、各学科・専攻科がそれぞれの教育目的・目標に基づく学修成果の達成に必要な教育課程を体系的・系統的に編成し実施します。

教育課程の体系をわかりやすく示すために、科目間の連携や系統性を示すナンバリングを行い、併せて科目系統図を示します。

さらに、各授業科目の学修成果と、学位プログラム全体・各学期の学修成果との関連をわかりやすく示すために、カリキュラムマップを作成し提示します。

教育内容、教育方法・学修方法、評価については以下のように定めます。

#### (1) 教育内容

2年間を通じて、各学科の教育課程の体系性に基づき、系統立てて必修科目、選択科目を適切に配置し教育を実施します。

#### (2) 教育方法・学修方法

卒業認定・学位授与の方針に掲げる身につけるべき「5つの力」（「専門的知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学ぶ力」、「協働力」、「人間性」）育成のために、各学年・各学期に講義、演習、実習・実験・実技を適切に配列するとともに、すべての教科目においてアクティブラーニングを取り入れた授業の展開に努めます。

学生の「振り返り（リフレクション）」を促し、「主体的学び」へのモチベーションを高めるために、各種試験や課題・レポート、アンケート結果等を学期中にフィードバックする等の形成的評価に努めます。

#### (3) 評価

本学では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる学修成果の修得状況を、「学生個人」、「学科」、「大学」の3つのレベルで把握し、多面的・総合的に評価して、授業改善、学生の個別

学習指導、ひいては教学の改善に役立てるとともに、対外的に教育の質保証を担保し、説明責任を果たすための可視化に努めます。

各授業科目の成績評価については、シラバスに示された学修成果別評価基準（ループリック）に沿って、学修成果の5つの基準（LO1：知識・理解、LO2：技能、LO3：思考力・表現力、LO4：関心・意欲・態度、LO5：人間性・社会性）別に、多様な手段と方法により、多面的・総合的かつ厳正に行うことを基本とします。

「学生個人」のレベルでは、各授業科目における学修成果基準別成績評価を累計して、学修成果基準別ならびに学修成果全体の実現・達成状況を確認するとともに、学期ごと及び累積のGPAを算出し、総合成績評価を行います。加えて、毎学期末の授業アンケートによる当該授業科目に関する学修成果基準別到達度、1年次前期末・後期末と卒業時に実施する学修行動・生活調査による学修成果基準別資質・能力の成長度を集計し、学生個人の学修成果の修得状況を多面的・総合的に評価します。

「学科」レベルの学修成果は、上記の「学生個人」レベルの学修成果の修得状況を集計して、多面的・総合的に評価します。

「大学」レベルの学修成果は、上記の「学科」レベルの学修成果の修得状況を集計して、多面的・総合的に評価します。

### 3 入学者受入れの方針

富山短期大学は、昭和38年、富山女子短期大学として創立以来、「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性を備えた人材の育成」を教育理念としてきました。

地域社会への貢献を社会的使命とする本学では、時代の要請に応えるべく、各分野でのスペシャリストの養成をめざしています。

この教育理念・教育目標に基づき、本学では、卒業認定・学位授与の方針に定める人材を、教育課程編成・実施の方針に則って育成するために、次のような人の入学を希望します。

- ・高等学校での教育課程を幅広く修得している人
- ・大学教育を受けるにふさわしい思考力・判断力・表現力を有している人
- ・知性、教養を身につけ、個性豊かな人間をめざし、主体性をもって自己を高める努力をする人
- ・積極的に他者との関わりをもち、地域社会の発展に貢献する意欲を持つ人

本学では、このような入学者を適正に選抜するために、多様な入試方法を実施し、本学が求める資質・能力を多面的・総合的に評価します。